

国連アジア太平洋 都市会議

水谷 顕介^{△建築家}

△その37▽

横浜で六月九日から開かれた「国連アジア太平洋都市会議」に出席してきた。参加が、国でなく都市であることがまずこの国際会議の特徴である。参加都市の報告はオクラホマ、バンコク、コロンボ、カラチ、マニラ、ポートモレスビー、上海、シンガポール、ボンベイ、釜山、チッタゴン、香港、ジャカルタ、ベナン、シドニー、横浜の十六都市からだった。会議資料として配布された各都市のペーパー集は、アジア都市に関してこれだけまとめられたものとして貴重だったし、同時に編集された各都市図集 (Physical profile of cities in the ESCAP region) は、延六四〇〇時間をかけてまた夫々の都市へ直接取材し

て編集されたものだという大努力作である。

テーマが、「人間居住に関する物的状況」や「大都市圏における自治体の行財政能力」だということもあるが、討論は、住宅を中心とした都市問題に焦点が集中した。農村破壊や難民による都市人口集中が驚くべき量で、環境不良のスラムやスクオッターが拡大し失業や半失業状態が一般的となっている都市がほとんどである。植民地支配の経済構造や植民地都市の経過や背景をもちつつ、現状解決の対策や将来の展望を模索している状況が熱っぽく報告された。こういった報告や討論に、各アジア都市からの出席者同士が積極的に質問し討議しあっていた。



6月9日~16日まで開催された国連アジア太平洋都市会議のパンフレット

上海は、社会主義体制のなかで、「可能な限り外観も美しくするよう配慮しつつ、実用的かつ経済的にする」住宅建設を進めているが、一九八〇年の人口は五八四万人住宅不足がいまだに深刻で居住空間が狭く平均一人当り四・四㎡で、住宅がないために結婚できない多くの若いカップルがあるという。香港やシンガポ

ールは、大量の高層住宅を建設していて、人口二五〇万人のシンガポールは住宅総数の三分の二以上が公共住宅である。

討議をとおして感じたことは、スラムを都市悪としてきめつけその除却を計画する施策を排して、その都市の必然性を評価して、こうというヒューマニズムの姿勢だった。

横浜はご自慢のアーバンデザイナーの実績をいろいろな角度からアップルしていたが、アジア都市の深刻な話題とはフェーズがずれている。

建設白書の抜き書きを棒読みするようになわが国の建設省担当官の報告も、あまりにもアジア都市の相互理解への国際的認識に欠けている。

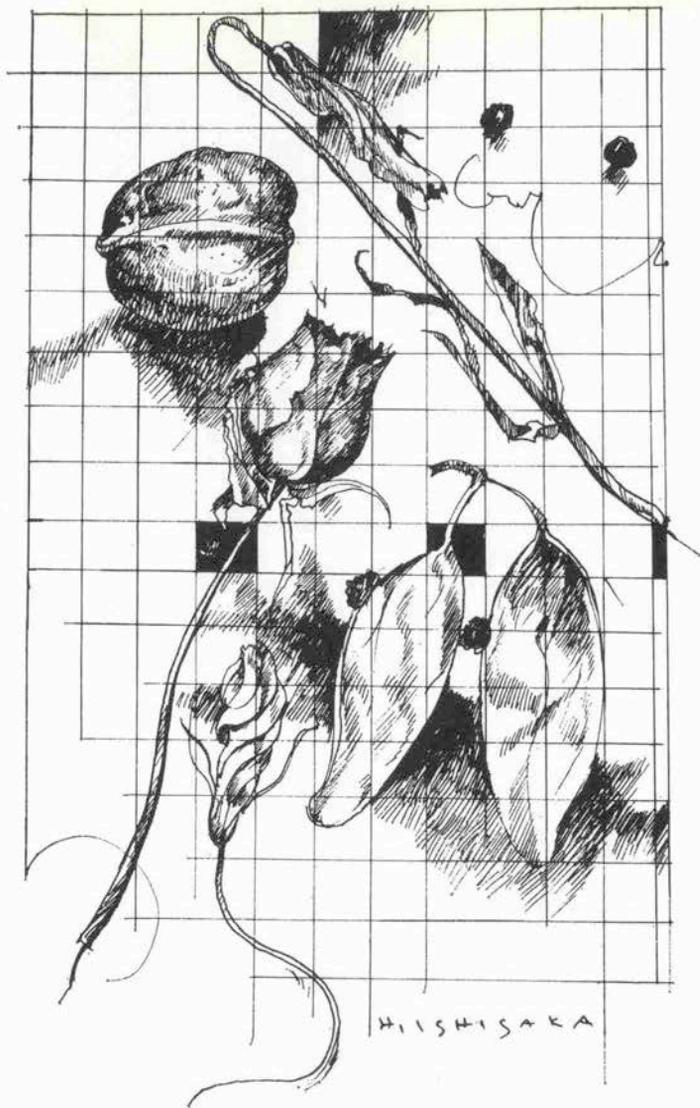
現代の建設技術の適用以前に、労農派の経済学や賀川豊彦の貧民救済の実践活動哲学などを再認識してみることが必要なのではないかと考えた。

今度の会場は、横浜国際会議場と神奈川県立ホールで、ここは港の見える山下公園の前に並び名門ニューグランドホテルをはじめいくつかのホテルに近い。旧英国領事館の開港資料館、県庁、中華街も近接した好ましいコンベンション街区である。

二億円ほどかかっただろうという国際会議を主催した横浜市の都心も、横浜スタジアムの大洋↓巨人戦の人氣のように活気が甦えつつ来たようである。

詩心象

詩・安水
画・石阪
稔和
春生



ゆめの

ひとりではない
ふたりでもない
さんになんでゆく
しろいまちなか
ひとかげたえた
ひのてりつける
けものはしる
したしいまちよ
がけのしたには
あかいはなかれ
ながれのなかに
あかいいしちる
ゆるむゆめの
ゆめのゆめの

●れんさいエッセイ●ペンのうちそと●5

「ひとみ」と「あかね」

三枝和子

（作家）

え・元永 定正

——執筆を終えられて、または、その合い間の、ほっと一息というときは何をしたらっしゃいますか。そんな時間の三枝さんの写真をとらせていただきます。

ある新聞社からの電話である。

——ええっ、写真ですかあ……。

こっちは、とっさに答えられない。原稿が済んでほっと一息、なんて優雅な時間を最近はずちあわせてない。もう悲鳴をあげ、あちこち書きなぐったから、御存知の方も多いと思うが、来年の三月まで、寺の掃除に追われるはめとなり、原稿は締切を守らなければならぬ小さなものは何とか片付けているけれども、小説の方はいっこうに進まない。掃除が済むと、くたっとしてしまい、原稿を書く気がせず、長椅子の上に寝そべっている。まさか、そんな恰好を写してもらおうわけにはいかない。その上、原稿が済むと、なんてときがない。掃除や家事の時間が来ると原稿はいつでも中止せざるを得ないので、原稿が済むと、くたっとして、という状態まで原稿を書いたことがないのである。東京の仕事場でなら、平均十時間くらい机にむかっているの、終るとふらふらになり、それから気晴しに飲みに出かけるのが通例だったのだが。ただ、長椅子の上に寝そべっているながら、猫た

ちと遊ぶ。猫たちと遊んでいるうちに次第に元気を回復し、掃除の雰囲気から脱却し、机にむかう気持にはなる。

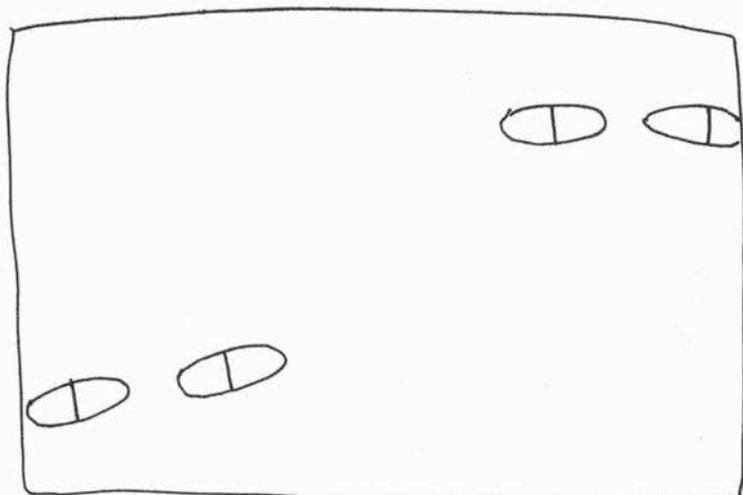
——ああ、それじゃ猫にしましょう。猫を抱いて寛いでいらっしゃるところを撮りましょう。

それで話は決まったのだが、私の方は、猫と寛いでいるかなあ——と釈然としない気持のままだ。

この猫たちは、私の田舎暮らしの唯一のメリットである。猫たちが居なければ、田舎生活は、もっと我慢のならないものになったに違いない。特に、この春生まれた二匹の仔猫が慰めである。

私の猫ばなしは、すでに鼻についていると自分でも思うが、名前のことはまだ書いてなかった。もっとも、これは「神戸っ子」を読むひとにしか通用しない話かもしれない。だからまたかとヒンシュクされようと、あえて書く。

動物の名前をつけるのが、すぐく上手いひとが文筆家のなかにはいるが、私はからきし駄目である。これまでも、尻尾のところに黒点が一つだけある白猫に「チョン」とか、雄だとはかり思いこんで「知伊太」（よく走るようにとの願いもこめて）と付けた猫が雌猫で、おまけにネズミ一匹捕えないズボラ猫だったりで、全く信用がない。亭



S. Mochizuki '82

主の森川達也の方は、私よりは上手い。現在の二匹の仔猫の母親は、うちの寺の名、「花蔵院」に因んで「はなこ」。名は体を表わすというか、なかなか華やかな雰囲気を持った美女猫である。はじめて仔猫たちを、屋根裏のお産の部屋から下ろして来たとき、森川が、私が勝手に仔猫の名前を呼ぶことを禁じた。小さい方のキジ猫を、何となく間が抜けているので「ボンスケ」、大きい方の白黒猫を、のんびりしているので「お姉ちゃ

ま」。

——君は、よく雌雄を間違えるからなあ。反対のように思うけど。

森川は首を振って、特に「ボンスケ」を禁じた。

——ひとがせっかくいい名を付けようと思ってゐるのに、イメージが狂う。

そして、「ボンスケ」と一度呼べば一万円捲きあげられることになった。これには私も参って、用心していたが、遂に二度ばかり口走った。余談だが、捲きあげられた二万円也は「海皇」へ出かけ海鮮料理を食べて消えた。

さて生まれて一ヶ月ばかり経過すると、さすがの私にも雌雄が明瞭になって来た。やはり逆だったのである。「お姉ちゃん」は、その父親によく似た、吊りあがり気味の大きな目をした雄猫で、「ボンスケ」は次第にかわいい女の子になった。そんな或る日、神戸に用があつて出かけていた森川が帰って来るやいなや。

——決めたぞ。雄の方は「ひとみ」、雌の方は「あかね」。

何ですって？ 私は絶句した。まるでパーのホステスさんの名ではないか。しかし森川は自信たっぷりだ。

——「ひとみ」の方は、すぐ決まった。女の子はなかなかだったが「茜屋」で珈琲を飲んで考えているうちに、そうだ、これが可愛い、と……。何たることぞ、と私は思った。しかし「ひとみくん」「あかねちゃん」と呼んでいるうちに、最近はその名以外の名が考えられないようにしっくりして来た。名付けるといふのは、実に奇妙な行爲である。

三宮グレイス神戸B1



ローブニシジマが
ちよつとだけ移転いたします。

三宮グレイス神戸B1の
南東カドから北西カドへ場所移動いたします。
電話もサービスもそのまま
11月リフレッシュオープンいたします。

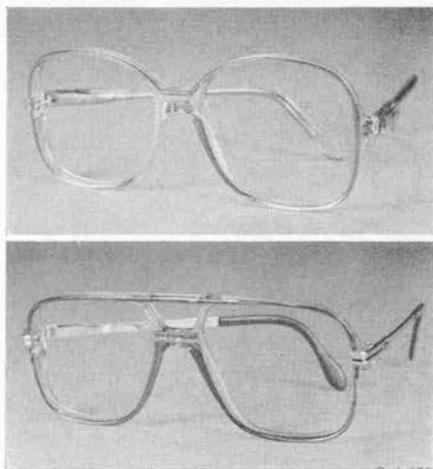


技術に贅を尽しファッションを
常に美しく——ニシジマ

- 型ぐずれの防止 ●素材感の回復 ●カルテの作成
- お客さまのお好みに合せた仕上 ●ファッションクリーニングの最新情報の提供

神戸市中央区三宮町2丁目10番7号
グレイス神戸B1 ☎(078)332-2440

めがねの **Five Point**



見る——医学。物理学。心理学。
見られる——美学。
使う——力学。
以上五つの学問の結集がポイントです

神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表
三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

耳のよきパートナー

補聴器オーディオルーム

専門コンサルタント担当

- 防音室で聴力測定・補聴器微調整
- 耳穴にフィットする耳栓型取り

※補聴器は元町店で取り扱っています。

結婚特集
BRIDAL COLLEGE
 結婚大学



1982年度開講科目(必修)

美学	小関 三平	観光学	岡見 裕輔
医学	細川 董	コンピューター学	大内 豊春
経済学	服部 清美	演出学	福岡 康年
法学	奥村 孝	服飾学	山田富紗子
建築学	高月 昭子	家政学	宮本 豊子
		料理学	白井 操



BRIDAL
COLLEGE

特集

結婚大学



美学

いずれにせよ、苦の世界。
ま、よろしいんじゃない
ないですか……

小関 三平〈神戸女学院大学教授〉

これだけ異性間の接触が多様化した今日でさえ、たった一人の相手を選んで結婚する気になる若者が絶えないのは、フシギといえればフシギである。

私たちのころは、異性と話をすることさえむずかしくて、きわめてまれな偶然でたまたま出会った相手と、おたがいをよく知らないまま結婚してしまうケースが多かったはずである。いわば、目移りのしやうがなかったし、独りで暮らすさびしさをまぎらすためには、そうするほかなかったともいえる。

ところが、いまは「別れる」というコトバがむかしほどの重さを持ちもせず、「浮気」とか「婚外恋愛」にたいする罪悪感のようなものが、ずいぶん弱まってきたようなのに、それでもあえて一人の相手を選んで共に暮らすということは、そういう「破綻」が深刻さを失ったからだろうか？

いやになったら別れたらよい、という割り切りができるから、結婚するのだろうか？「とりあえず結婚してみて」とか「とりあえず子どもをつくっておいて」などという若い女性たちも、いないではない。近い将来には「再婚あっせん業」みた

いなものが、繁盛するかもしれない。それとも異性体験がゆたかになって、それぞれの相手の価値が相対化され、「しょせん、どれもそう変りはしないのだから」と達観して、結婚するのだろうか？その場合はなかば「さめた」気分と、したがって一種の「ゆとり」があるのかもしれない。

いずれにしても、現代的な結婚生活の最大の障害は、「結婚ロマンスイズム」の幻想、相手への誇大評価・期待過剰、また、「独占エゴイズム」とそれゆえの嫉妬心、ということになりそうである。「夢がなくなる」といえばたしかにそうだが、万事に夢がなくなる時代なのだから、しかたあるまい。もともと一夫一婦制というものが不自然なのだから、そういう無理にあえてしたがう以上はそれなりの「代価」は支払わなければなるまい。

結婚が恋愛の墓場である、という古来の名言は心に銘記するほうがいい。いったん夫婦になれば、それは本質的に恋人とはちがう間柄になってしまふ。むしろ、兄妹に準ずる関係と思っただけが、腹の立つことも少なくなるかもしれない。そう割り切れば、相手がだれと遊ぼうが、また恋をしよう

うが、「近親相姦」的な愛着は別として、正面切
って干渉する筋合いは、ないはずである。兄妹で
あれ、夫婦であれ、そこにはそれなりの「愛」が
ありうるにせよ、愛のかたちはさまざまであって、
しかもそれぞれの愛は、ときとして相剋し合う。
そのどれか一つに徹して他をかえりみないのが
「純粹」などといわれることもあるが、そのどれ
をも捨て切れないで心が引き裂かれ、干々に乱れ
るところにこそ、むしろ凡夫の真実があり、「人
間らしさ」があるのではなからうか？

こうした愛の葛藤を最少限にとどめるには、す
べてに距離を保って独りで暮すほうが、ずっと気
が楽で自由であるかもしれない。気が向いたとき
にだけ、その都度選んだ相手に会い、ときには、
離れているがゆえに愛情が純粋化されるのを楽し



詩人バイロンが歎くように「女といっしょに暮す
ことも、女なしに暮すこともできない」ディレン
マ。程度の差こそあれ、その歎きは女たちのもの
でもある。

むことも、できるかもしれない。共同生活はトラ
ブルの種であり、離れていればたがいの欠点もみ
えにくいし、相手を世帯やつれさせずにもすむ。
もちろん、しかるべき相手がいない、とさびしき
をかこつ独身者も一方ではあるが、結婚に疲れは
て、挫折し絶望して、もうこりこり、という独身
者もある。とくに、しかたなく夜に働く女性たち
に、それは多い。彼女たちの身持ちが、未婚の女
たちより堅いのは、そうした深い心の傷ゆえなの
である。結婚の夢をまったく捨てているわけでは
ないにせよ、ふたたび裏切られることは注意深く
避けなければならぬ。それに、かりに、まれな
幸運で新たに結ばれるにせよ、結婚は恋愛の墓場
なのである。

だが、あえて独り暮らしに耐えるには、よほどの
強さが要るだろう。独りで食事をしてもう楽しい
ものではないし、病気になるっても身のまわりの
世話をしてくれる者はいない。老後を思えば、せ
つないさびしさに身を切られる夜もあろう。もし
救いがあるとすれば、それは、深い心で結ばれた
友人だけである。独り暮らしの孤独は、恋人に思い
焦がれながら家庭の日常をとりつくらねばなら
ない「不貞」の孤独に、まさるとも劣らない。

その点、「自立」の能力に欠ける男性たちは、
もろく弱く、身勝手である。詩人・バイロンが歎
くように、「女といっしょに暮すことも、女なし
に暮すこともできない」ディレンマは、とりわけ
男のものではあるが、程度の差こそあれ、その歎
きは女たちのものでもある。既婚・非婚のいずれ
にせよ、「ま、よろしいんじゃないですか」と、
ライトにいなすほか、あるまい。



BRIDAL COLLEGE

特集

結婚大学



医学

エキストラスーパー医学 一生ひとつの 水槽のなかで

細川 董（哲学者）

キユツとウエストがしまつて、ぼつちやり色白小粒の、通称「しじみちゃん」は、全身これ笑顔といった丸顔をクチャクチャにして、少々はにかみながら、近々結婚するつもりという恋人の、ズングリムツクリ白熊のような写真を私に見せてくれた。

「先生、私たちの相性はどうかしら」とたずねられた時、私は彼女の変型しやすい、もろい芯のはいつているマシユマロのような腰と、彼のガツンリした大尻ヅン胴をすぐ連想して、結婚しても彼女はやがて子宮後屈症になり子供は産めないだろうと占った。

「この結婚はあかんで。必ず不幸になる。やめといた方がええで」と診断したのに、彼女はいつこうに平氣の平左、

「いや、頑張ってみます」

と意地をはり、けなげに結婚宣言をし給うた。

後でわかったんだが、彼のマスクは甘く切なく女心をやさしくすぐるしるもの。インテリの彼女もやはり男のうわべにだまされたのだ。

サギにあつておきながら、二人のムードはびつ

たしなんて錯覚するのだから、人間はあさはかさか。

数年前、ムチ打ち症で一カ月入院しているうちに、男女の姓名を見ただけで、宇宙の調和に反するかどうか、靈感を得て、ドクターHOSOKAWAは相性診断に最近忙しいのである。精子と卵子がいくら健全でも、相性がよくないと受精なんて起こり得ないのだ。これぞ結婚医学の奥義でありますぞよ。エキストラ・スーパー医学というヤツだ。

話が横道にそれましたが、彼と彼女、結婚はしたものの、いまだに子宝に恵まれていない。当然である。私が最悪と診断した別のカップルは、新婚旅行で事故にあつて生命を落としているんだから、子供ができないぐらいの報いは、宇宙の調和に反した人間のバツとして当然なのである。ちなみに、彼女が結婚することをお父さんに打ち明けたとたん、父親は大反対、ビククリ仰天、以来高血圧で床についたというのだから、自然の理に反して、人間が勝手気ままに人間の意志をほしのままにするということは、本人のみならず、周囲

に与える影響も大であるといわざるべけんやノ、
でありますぞ。

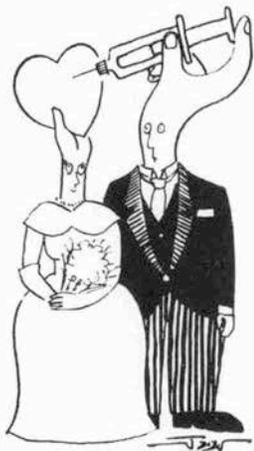
「恋に生きる」などとカッコいいことをいって
も、医学的相性に反する場合は「その結婚、ちょ
っと待った」と私はいいたのであります。

フアラフォーセット顔負けのスナリ足の長い
美女にほれた大会社の御曹子、数百人を集めて大
ホテルでの披露宴だったが、一年ほどで別れてし
まった。もともと彼女は、腎臓が悪く、30分ごと

「恋に生きる」

などとカッコいいことをいっても医学的相性に反
する場合は

「その結婚、ちょっと待った」



に「ちょっと失礼」とトイレに通い、強烈な便秘
症である。「まだ今週も出ないの」と訴える時の
彼女の顔色はさえないが、男はそれがまたアンニ
ユイだと、彼女を脚色してしまい、色っぽいと誤
認してしまうのだ。

おまけに、便秘時に生理が重なると、彼女の生
理痛は最高潮に達するらしい。

彼女がいかに彼とのセックスを求めたにして
も、こんな状態の彼女の肉体の門が彼を受け入れ
るなんてどだい無理というものだ。

快感は苦痛だというのも程度問題だろう。

私は結婚前の男のメディカル・バランス測定こ
そ大切と思うのだ。あえていわせてもらえば、カ
ップルの性力バランス診断まで、現代医学は挑戦
すべきであろう。体力バランスといわず、あえて
性力バランスというのは、ボディビルで鍛えたよ
うなすばらしい体力のスポーツ選手が、見かけに
よらず初夜にインポテンツに悩まされたりするか
らである。

若気のあやまちとは見かけにだまされやすいと
いうことだ。

すばらしいやせ型の背の高いセクスのいい男性
が、実は美食を好まず、馬鹿のひとつ覚えにイン
スタント食品ばかり食っているというのも意外で
ある。

エンゼル・フィッシュさえオスメス百匹ばかり
入れた水槽で一つがいできればいいといわれている。
いいカップルをつくることは至難のわざなのだ。
相手を傷つけあうだけの悪いカップルが、一
生一つの水槽の中で暮らすとしたら、想像しただ
けでも背すじが寒くなるではありませんか。



BRIDAL
COLLEGE

特集

結婚大学



経済学

服部式結婚式に徹せられず

しめて一千万円

私の結婚経済学

服部 清美（松蔭女子短期大学講師）

長男から三年半をおいて、三人の年子をもち、しかも三人とも中、高、大学（一人国立をのけて）全部私学。母親たる私は、数種類にわたる仕事をこなしながらの毎日、家計簿をつけるいとまもない有様。したがって、三食昼寝つきで、うちの中のことは私にドンとまかしといて、というふうな、世の奥様方とはほど遠い経済観念ゼロに近い私に、結婚経済学とはいったい何たることぞ、と一たんぼやいては見たが、ましてしばし、このたった二年半の間に、息子二人に嫁をとり（ひよっとして死語？）娘をとつがせ（これもけしからんことば？でも息子と娘を強調するために、あえてつかうことにする。）加えて同居していた母を神のみもとに送り、その間出産二回（私がですって？とんでもない）悲喜こもごものめまぐるしい日々の経済を如何に切りぬけて来たかを考え直すのも一策か、とひきうけることにした。

次男と長女の結婚式は一昨年（二月と五月、その間たったの三カ月であった。ことのついでに同じ日にしたかったのであるが、それも行かず四月の新学期の講義の準備と、例年五月に東京で開か

れる美術展に出品の油絵の制作の間をぬって文字通り走り廻ったのである。結婚とは、まるで風習の違うところに育った二人の男女がむすびつくのであるから、セレモニーの終るまでの打ち合せの繁雑さは筆舌につくしがたい。それだからこそ夫の考案した服部式結婚式があるではないか。それは、無宗教に徹して、すべてを音楽で構成し、二人が結婚届に署名、捺印することをメインイベントとして行うというものである。すでに幾組かの男女がこの方式を利用して好評を博して来たのである。それなのに我が不肖の娘や息子どもは、となくくことしきりであった。とどのつまり、彼らは、誰にも文句をいわれずにすむようにということで、すべてがベルトコンベアによってスムーズにここのはこばれるショースタイルのホテルでの結婚式をすることに相なったのである。たとえば料理が一人前二万円なら倍の四万円かかると思っ

てそれに人数分をかけたのが必要経費と考えて下さいとホテル側から言われたが、なるほどその通りであった。ウエディングケーキにナイフを入れる瞬間にドライアイスによる霞か霧かがふわふわ

とたちこめ、二人は夢の王子様、王女様気分になしてもらって一万円アップ。一生に一度のことだからこのさいという気もちに本人をさせるのは見事な商法といわざるを得ない。そして親もここで文句の一つも言えば親子の絆にきずがつくのは、とグツと我慢をする。よくできたものである。

披露宴にかかった経費は公平に頭わりと言うことにした。娘の時は「お兄ちゃんの時は何だ彼だともめたから、私の時はうちからはぜったいに口出しをしないでね。私はもらってもらうのですから」と彼女にいわれた。二十三才の現代娘が、もらってもらうとは何たる不見識なことをいうのだ。断じて差しあげるのではない。二人が両方の家から出て、新たに家庭を築くという、ただそれだけのことではないかといきりたってはみたが、

長男から三年半をおいて三人の年子。この二年半の間に、息子二人に嫁をとり、娘を嫁がせて、結婚式、披露宴、新婚旅行……しめて一千万円の出費。



無宗教に徹して、すべてを音楽で構成し、二人が結婚届に署名、捺印することをメインイベントとして行なう——服部式結婚式

内心くたびれはてすっかり相手まかせ。おかげでことはいともスムーズにはこんだのである。

新婚旅行であるが、次男の時は当然男性側が二人分もつべきだと信じて私共でもった。その後二、三の知人から、「海外に旅行する時は両方でもつ場合が多いのですよ」ときかされたおかげで長女の時は、相手様がとんでもないといわれたのをいやいやとふり切って娘の分はこちらで負担することにした。結局何のことはない三カ月の間に三人をアメリカとカナダへの旅に出したことになるのである。それから一年後に結婚した三男の時は、男性側からいうべきことではないので、これもまた二人分をうちでもつことにしたのだ。

三男の結婚式は今度こそ、本人のたつての希望もあって、服部式結婚式を実現させたのである。司会は新郎の兄。ピアノは妹。客は本人達のきょうだいと両親の、親きょうだいのみにとどめた。アルバムも本職のカメラマンに近い私の義弟が各出席者のポートレートもとって、うまくアレンジしてくれた。すべてむだをはぶいたホームメイドの結婚式披露宴であったが、全員がのべてくれたお祝のことはや唄なども心にとまり胸あたたまるものであったとあちこちから御礼のお手紙をもらって感激したのである。

わずかの間にそんなにたくわえとてない私達が、しめて一千万以上にもなる出費を如何にして切りぬけて来たのか不思議であるし、母が、「魔法のようにお金が次々と出てくるのね」とよく笑っていたが、とにかく家族一同健康に恵まれて、常によき働きがあったからに他ならないと感謝している次第である。



BRIDAL
COLLEGE

特集

結婚大学



法学

結婚は法律用語では「婚姻」

同居して互いに

協力扶助の美風を

奥村 孝（弁護士）

「結婚」のことを法律用語では「婚姻」といい、民法第七五〇条以下には婚姻の効力として次のことが定められています。

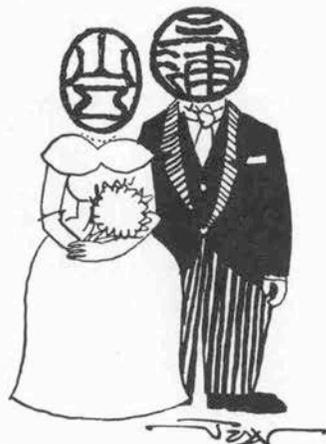
婚姻の効力とは婚姻した男女（夫婦）に対して与えられる権利義務ということで、その一は夫婦同氏——夫婦は婚姻する際に定めて届けでた夫または妻のどちらかの氏を称すること（第三の氏は名のれない）。その二は夫婦同居扶助義務——夫婦は同居して互に協力扶助しなければならないこと（夫婦対等の義務を定めている）。その三は夫婦間の契約取消権——夫婦間で契約したときは、その契約は婚姻中いつでも夫婦の一方から自由に取り消しができること。そのほか生存配偶者の復氏とか成年者能力の取得とかが定められています。

同じ氏を名のり同居するなど当然といえば当然ですが、夫婦が別の氏を名のり、あるいは互いに同居を持って独立の生活を営んだりする時代になってきました。しかし、民法の規定は厳然として存在していますので別氏を名のるためには婚姻届を出さないか、あるいは届を出しているのを秘して通称で押し通すしかないわけです。同居の定め

は法律的にみて強制力がありませんので同居しないからといって不利益な問題は生じません。民法では表面上夫婦間に差別をつけず、夫が家事育児をし、妻が働きに出てもいっそう差支えない建前になっていますので、このような夫婦は現代的民法の実行者といえるでしょう。夫婦間の契約取消権もまた現代的存在です。夫が妻に贈物をする約束をしても、いつでも自由に取り消すことができると定めたのは、夫婦間の契約というものは愛情で処理するもので、法律的にその実行を要求するものではないという愛情至上主義に民法が支配されている表現です。

ところで、夫婦とは、民法第七三九条に婚姻は届け出ることによって効力を生ずると定めていますので、届出をしなければそれは法律上の夫婦とはいえず、私達はこれを内縁の夫婦といって區別しています。（二号さんとかお妾さんとか本妻のある男の人と同居同棲していてもこれは内縁とはいわず婚外関係といい、その同棲についてその女の人には何等の法律上の権利義務は生じません）法律上の夫婦と内縁の夫婦との大きな區別は、生

れてきた子供が夫婦では嫡出子となります。が、内縁では認知しなかり母の子にすぎません。したがって父の相続に関して大きな区別があり、内縁の子は不利益を甘受することになります。内縁の妻は夫の相続人にはなりませんので、これもまた不利益です。ただ例外的に社会保障政策上、労災保険の遺族補償年金とか国民年金の寡婦年金などでは婚姻届をしていないが事実上婚姻関係と同様な事情にあったものとして、内縁の妻を法律上の妻と同等に扱い、また、借家法第七条の二では、建物賃借権の相続について内縁の妻を法律上の妻と同等に扱っています。内縁の夫婦についてなにかと不利益なとり扱いがあるのは我が国では法律婚主義届出婚主義をとっているからです。もっとも不利益ばかりでなく、離婚するのに



婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない。(日本国憲法第二四条第一項)

はなはだ便利だという人もいます。離婚届も家庭裁判所も不必要、当事者の意思だけでよいという便利性を説くのですが、はたして便利だけでよいものでしょうか。

我が国の合意による離婚制度はなはだ簡単です。協議離婚届を区役所に提出するのに印鑑証明書がいるわけでなく、役人の前で署名することも必要ではありません。夫婦連名の届を提出すればそれで離婚OK。このような簡便な離婚制度を認めている国は少ないのです。一方、強制離婚はなはだ困難で、自分は真面目で相手は不貞浮気でもかもその証拠を裁判所に提出しない限り裁判で離婚することは不可能に近いのです。何年間別居しているとか、何年間夫婦らしくない生活をしているからと訴え出ても、裁判所は慎重です。クリンハンドの原則といって、自分は好きな女と同棲し、妻とは別居している男には離婚を求めるとは利はないというのが最高裁判所の判例です。このようにみれば婚姻届を提出しない内縁の妻は、合意で別れるのは至極簡便ですが、夫からの追い出し離婚を防衛するには不都合であることがよくわかります。

日本国憲法第二四条第一項が、「婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない」と定めたことを受けて、わが国民法では、自由な結婚を大中に認めています。が、いかに自由だといっても、婚姻届は結婚後すみやかに区役所に提出して、法律上の夫婦になり、同居して互に協力扶助しあう美風だけは維持して貰いたいものです。



BRIDAL
COLLEGE

特集

結婚大学



建築学

もう一部屋症候群が蔓延
家は小さくてすめば
それが一番

高月 昭子〈建築家〉

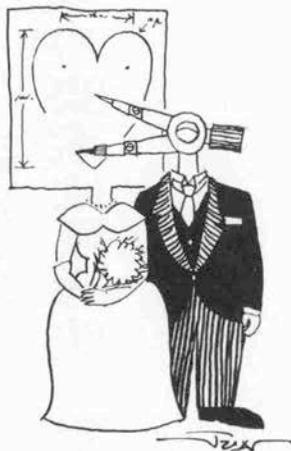
すまいは生まれた時から誰にでも関わりがありながら、「住居」として本当に身近で切実な問題となるのは独立して自分の力でくらしを支えるようになってからだといえます。家は小さくてすめばそれが一番だと私は思っています。手入れも楽で、経費もかからない、貴重なスペースだからそれだけ工夫して隅々まで生かして使うようになるし、家族のコミュニケーションも密になるし、整理、整頓が行き届く等々、良いことだらけです。ところが小さいということと狭いということが混同されて、家が狭いからとか、私が「もう一部屋症候群」と呼ぶ症状がどうやら主婦の間に蔓延しているようなのです。2DKに住んでいる人も5DK位の1戸建に住んでいる人も同じ位の熱意でもう一部屋あればと思っているというのです。それは間取りの悪さ、すまい方の下手さ、暮し方のポリシーのなさを棚にあげての発想が大方ではないかといいたのです。いつもまだ見ぬ空間や部屋に夢や希望をたくして、現実の場での努力や研究を逃がしている。家族が成長してゆくように、すまいても成長させてゆかなければなりません。でも

それはけっして一足跳びにつちかわれるものではなく、「ああせめて家付きにとつげばよかった」というものでもないのです。積み重ねて行錯誤しながら身につけていくものです。なまけて不平不満ばかりでは、いざ住居を新築出来るといふ時に、大きなあやまちをします。そして、実現したすまいは内容の充実しない薄っぺらな住宅雑誌のツギハギの態をなすのです。そういう方々はせめて、しっかりした主張で支えてくれる熟練した設計家に全ておまかせするのが賢明というものでしょう。いい器に入れば、それに似合ってくるということもあるのですから。

ところでこの症候群の原因の一つと思われるのが、その住居のはじまりにおいて既にドッカとその存在を主張している嫁入り道具にあるようなのです。すまいを白紙から描けないで、すでにぬってしまっただけの色に後々まで引きずられてしまうようなことになっているのです。たとえば新築の家の設計の際、例外なく高い単価の貴重なスペースを「納戸」と称してその捨てるに捨てられない嫁入り道具類を収納する羽目になるのです。たかだか

二人からの出発、整理ダンス一つに何にでも使える一生ものの大きなテーブルと台所用品があれば十分ではないか、貴重なスペースをいかに空間として獲得するか、モノに占有させないかがその出発点での基本です。なればその出発点としての花嫁の道具選びはこれからの二人のくらし方を左右する程重要なものであるから、慎重な上にも慎重でなければなりません。家具一式が買える位の値段で、例えば整理ダンス一つ、カップボード一つならこれは相当立派な良いものが手に入るでしょう。結婚してからは、とうてい買う能力も勇気も出そうにない位のものを選んでみてはどうです

住居学は、人間関係学であり、空間論あり、人生論あり、経済論あり。
実践者としての主婦に最も要求される分野です。
乞研鑽。



か。嫁入り道具をおひろめしたり、トラックの数や台数で嫁の値打ちをはかられそうなどころではなかなかむずかしいでしょうが、要は二人のこれからの住まい方がかかっているのです。だいたいの嫁入り道具類はあまり後々は目につかないもので、寝室や納戸や次の間に隠れるもの、それより目につく所に置いておける道具や家具類にお金をかけておく方がずっと見栄もはれようというもの。私にしても、時間を経てツヤと貫録を増した値打ちものの家具の一つ、およそ普通の家庭では見かけない皮張りのオットマン付ラウンジチェア（安楽椅子）や、家族の歴史をきざんできたような大テーブルであれば、それに似合うような部屋、そのモノたちが生きるといった設計をしてみせますよ。いい物に接して、本物を身近に使うてきた人々には、コワモテのデザインや、時間の経過に耐えられない品質や形を見分ける力が自然になわってきます。その人の思想、生きる姿勢が反映され、人間性がモロに出ているのが住居です。大きな家とか団地とかは関係なくそれなりのすまいにどんな住まい方をして居るか、そのたまたまいでその人の品格や考え方が解るといっても過言ではないわけで、恐しいことですよ。本当のところその辺りをしっかり自覚して頂けると日本の住宅も街のたたずまいも、もう少ししっくりした落ち着きを取り戻してくるでしょう。

住居学は人間関係学であり、空間論あり人生論あり、経済論あり、そして目ざすところは健康で安らげる人間の器としての住居の実現だといえるでしょう。特に大方の実せん者としての主婦に最も要求される分野です。乞研鑽。